

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3071300432
法人名	社会福祉法人 愛光園
事業所名	愛光園グループホーム
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野140 (電 話) 0736-23-3830

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	7

(2)建物概要

建物構造	耐火構造 造り
	4 階建ての 階 ~ 4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,600 円		その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		780	円	

(4)利用者の概要(平成19年11月1日現在)

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		2	名	要介護2	4	名
要介護3		1	名	要介護4	1	名
要介護5		1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	83 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上田神経内科	上田内科	かつらぎ町歯科医師会
---------	--------	------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは紀ノ川に沿った田園地帯に位置する同一法人の施設の4Fにあり、法人と様々な連携を保ちながら日々を恙無く過ごしている。本人の希望に沿って毎日の入浴が行われており、スーパーへの買い物にも2・3日毎に出かけているなど、入居者の目線でのサービス提供を行い、またその重要性を認識している。また各居室毎にトイレが備え付けられ、十分な室内容積を確保し、車椅子でも出入りが容易な位のバリアフリーを達成している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価後に法人内の大規模な異動があり、外部評価の経験者が殆どいないため、その後の目立った取り組み等はあまり見受けられない。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 経営者による積極的な改善への協力は得られていないが、現場レベルではミーティングを繰り返して職員への周知を図りながら改善可能なところから取り組もうとしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は同一法人で運営されている「愛光園第2グループホーム」と合同でおこなわれた。未だ1度しか開かれておらず、目立った実績・成果等は現れていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や要望などは面会の時などに随時受け取り、ミーティングや報告を経て現場レベルで対応している。「家族会」は存在するが機能性が不十分であり、目立った成果は見られず今後改善が望まれる。。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 周りに景勝地がたくさんあり、行楽にはよく出かけている。買い物や散歩に出かける頻度は2～3日に1度である。また、地域の行事等への参加も見られる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一般論としての理念はエレベーター扉に貼り付けてあるものの、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念は未構築である。	○	理念構築と共に職員・家族・地域住民に周知浸透を含めた取り組みが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えるという当該ホームに特化した理念の構築を目指しており、その重要性も認識しているが、特に取り組みは見られず、各職員にも地域密着型サービスとしての理念が浸透しているとは言い難い。	○	ホーム内での毎日の日課をこなす消化作業だけに止まらない独自理念が息づいた業務を行い入居者のケアの質向上に寄与させるべく、経営者・従業員一丸となつての理念共有を目指すのが望ましい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物の回数は2～3日に1回であり、地域行事の参加には前向きに努めている。	○	ホームで発行している「たより」をスーパーや公民館等の施設に常置してもらうなど、ホームの知名度アップを図る事から始めるのが望ましい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果等を現場レベルでのミーティングにて随時提起しており、それに伴って各職員への周知を図るなど改善可能などから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は未だ1度しか開かれておらず、現管理者は最近に着任したばかりで内容は存じていない。	○	形式だけ開いてよしとせず、会議そのものをどのように活用し入居者のケア向上に活かしていくかが重要である。これからの成果・実績の積み上げで当該会議の活用を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者が階下の特養施設を訪問した際に、4Fのホームの様子も見に来てくれる程度で、自治体と現場とのケア向上に向けての直接の関わりは殆どない。	○	自治体との関わりについて、監査・指導・報告などの業務上の関わりに止まらず、どのような関わりが入居者のケアの質向上に寄与するのかを十分に検討し方針を立てた上で、当該ホームのみならず法人全体をあげて自治体との関わりを産み出すのを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の「たより」を発送し、それ以外は面会時や電話などで報告を行っている。	○	ホーム内の生活に無関心な家族が多い為連携もスムーズではないが、まずは家族に本人とホーム内での本人の生活に興味・関心を持ってもらう取り組みから始められたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは能動的に連絡を取り合い、希望等を抽出しミーティングなどでの話し合いを経て次のケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に伴う職員間での混乱は多少あったものの、入居者の生活への影響を最小限するよう努め、実際に入居者に影響はなかったようであった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は少ないが、外部研修は交代で公務として行けるようになった。新任研修の専属職員は配置していないが、日々の業務の中で気付いた職員がその都度アドバイスし、結果的に先輩職員全員で新人育成を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会内の相互研修に参加し、職員研修の一環とすると共に同業者との交流に力を入れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規に入居する時はホーム側が主体となって入居者の生活環境激変に配慮し、随時家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	あくまで自然な雰囲気を大切にし、入居者と職員は家族の一員としての役割をお互いに自然にこなせている。来訪者も自然に皆に溶け込めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員は考え方として、本人の意向・希望に配慮したケアの重要性を認識している。一方で、把握の為に書類作成に対し、提供されている雛形を十分に活用できていない。	○	「センター方式」の内容の理解と使い方を十分に学習し、適切な活用が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1～2回又は随時の職員ミーティングでケアについて話し合いをもち、相互にアイデアを出し合う形でケアの質向上を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の心身状況の変化に対して半年に一度又は随時に介護計画の見直しを行い、ミーティングから業務へ反映させている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に合わせて、外出や通院・送迎などに柔軟な支援が行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の医療支援について家族に対し十分な説明をし納得を得た上で、月に2回かかりつけ医の往診を受診している。また、歯科医も往診に訪れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にホームのターミナル指針に了解を得ながらも、家族との連携を絶やさず、その要望に出来るだけ応えるという方針を共有し、対応にあたっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー保護の重要性を認識し、ことばかけやカーテンを閉めるなど排泄介助時にも配慮は欠かしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は日曜含めて毎日可としたり、2～3日に一度外出買い物に出かけている事などから、入居者の意向を大切にするという考えの下で日課を作り上げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は食事準備・後片付け共に積極的にに関わり、職員もその場に違和感なく溶け込んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜含め毎日可である。また本人の意向で入浴困難な入居者に対しても保清確保の必要性から声かけを欠かさない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事・編物・塗り絵・花札・トランプ等、入居者それぞれが思いおもいの役割・楽しみごとを持ち、職員は見守りを含めた側面支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や花見・地域の行事等への参加は積極的にケアに組み入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に入居者が屋上から外へ出たことがあり職員が追跡するなど対応に追われたとの事だが、その後も屋上は施錠されず、窓も開閉制限せずに鍵をかけないケアの実践を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の建物合同で火災避難訓練を年に2回行い各職員の役割分担等について確認を行っている。入居者の参加もある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に記録した栄養摂取に関する記録によって管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きく開いた4Fの窓からは山・川・畑がパノラマのように広がり、自然観たっぷりの環境である。共用スペースは生活感の溢れる雰囲気を醸し出し、一般的な民家のリビングルームと変わらない空間であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は容積を十分に確保し、その人それぞれの好みの所有物を配置している。		